「地域と共にある学校づくり」実践紹介だより 第２６号

連携・協働の力・タ・チ

令和２年９月８日発行　福島県教育庁会津教育事務所

地域おこし協力隊のイベントにおけるボランティア

～日頃の学習や部活動の成果を発揮！～ 県立川口高等学校

県立川口高等学校では、金山町内のＪＲ駅構内や駅前広場、保育園や体育館、道の駅などの公共施設の清掃活動を平成元年から３０年近くにわたり行っています。

また、生徒たちは、町内の特別養護老人ホームで行う秋祭りのボランティアや町で開催する湖水祭り、雪まつりのボランティアに例年参加しており、地域に貢献する取組が伝統となっています。

今回は、令和２年１月に行われた、金山町地域おこし協力隊のイベントにおけるボランティアの取組について紹介します。

活動に至った経緯

国内外から金山町に訪れる観光客が増加している昨今、町の魅力をさらに感じてもらうことを主眼に、金山町地域おこし協力隊（安藤奈菜隊員　以下、安藤氏）の企画・運営により、令和２年１月２４日（金）から１月３１日（金）にかけて、ＪＲ会津川口駅前にある喫茶店を会場に、体験型『観光多目的スペース』のイベントが開催されました。

安藤氏が、川口高等学校に対して、このイベントに生徒を参加させてもらえないかとお願いしたところ、校長先生・教頭先生共に御快諾されました。

イベント期間中は、３年生が学年末考査前であったことから、１・２年生全員に参加を呼びかけたところ、総合文化部茶華道班を含めた５名の生徒がボランティアとして参加することになりました。

【ボランティアとして参加した５名の生徒（左側）】

生徒が担ったボランティアの役割

〈運 営 補 助〉JR会津川口駅での誘客やイベント会場内での接客、観光案内

金山町は、近年、アジア圏の観光客が多く訪れることから、英語での受付や案内についても川口高等学校の生徒が協力しました。

〈イベント協力〉 体験コーナーでの抹茶のお点前の披露と提供

イベントでは、地域住民による「お茶体験（抹茶のお点前）」の企画があり、川口高等学校の総合文化部茶華道班の生徒が参加・協力しました。

●●● 活動の成果 ●●●●●●●●●●●●●●●

《成果その１》 地域に貢献できた満足感

新型コロナウイルス感染拡大に対する行動の自粛が徐々に始まった時期であり、ボランティア活動日の観光客は、日本人が１組、海外観光客は０組という状況でした。

イベントの参加者は、金山町民がほとんどでしたが、どの生徒も運営の立場で活動でき、町民との交流もできたことで満足できたようでした。

約２０名の参加者に抹茶の提供をした生徒は、作法や味を褒めてもらったことで、日頃の取組を振り返り、自信を高めることができたようです。

英語による案内を期待して参加した生徒は、機会を得ることができず、残念な思いもあったようですが、地域の活動に貢献したことへの満足感は持てたようです。

《成果その２》 学びの手応えを実感

今回のボランティアは、高齢者施設やイベントでの係や補助ではなく、日頃の学習や部活動の成果を発揮する活動であり、生徒にとって、学びの手応えを実感できる機会になったことが大きい成果でした。

《成果その３》 地域からの喜びとうれしい声

新型コロナウイルス感染の影響により観光客の減少が始まった時期でしたが、開催期間は、連日賑わいが見られました。

中でも、イベントへの高校生の参加は、生徒が積極的に接客や案内を行ったり、抹茶の提供をしたりしたことで活気が生まれ、参加者からとても喜ばれました。

特に、抹茶のお点前は、テーブル席で行ったので、参加された方々が、高校生の綺麗な作法を間近で見ることができ、高校生に称賛の言葉をかけていました。

【お点前を披露し、抹茶を提供する生徒】

この実践から学ぶポイント！

学びの成果や自分のよさを発揮するボランティア活動

ボランティア活動の本質は、自分の得意なことや専門的な知識・技能を生かして地域に貢献することです。

今回の金山町のイベントにおける川口高等学校の生徒によるボランティア活動は、**単なる協力ではなく、日頃の学習や部活動で培った資質･能力や自分のよさを発揮しながら地域貢献ができる有意義な活動**となりました。ボランティアをする高校生とボランティアを受け入れた地域の両方が WIN×WIN の関係になる素晴らしい取組です。